

「ICT（情報通信技術）を利用した認知症ケアのための情報収集・蓄積とグッドプラクティス自動抽出システムの開発と検証研究」

1. 研究の対象

認知症の方をケアしている家族や医療従事者、介護従事者で、20歳以上の方。

2. 研究目的・方法

目的：我々は、認知症の方の症状に対する有用な対応方法を明らかにするため、「認知症ちえのわ net」というウェブサイトを構築しました。我々は本サイトで、認知症の方に対して行った対応方法を介護者の皆様から広く収集・蓄積して、様々な対応方法の奏功確率を算出しました。さらに、高い確率で認知症の方の症状を改善させることができた対応方法をグッドプラクティス(GP)、高い確率で症状を改善させなかった、あるいは悪化させた対応方法をバッドプラクティス(BP)と定義し、収集・蓄積した情報の中から GP と BP を自動的に抽出しました。そこで本研究では、次の段階として、認知症ちえのわ net で抽出した GP を実臨床場面で実施し、実臨床場面での奏功確率と認知症ちえのわ net 上の奏功確率の一貫性を評価することで、認知症ちえのわ net で抽出された GP の信頼性を検証することとしました。

方法：認知症ちえのわ net で公開されている GP とされている対応方法を、同じ症状を呈した分担施設の外来・入院患者さんに対して実施します。例えば、「薬を飲み忘れる」症状を認めた患者さんに対して「薬カレンダーを利用する」、「ある物が人や顔などに見える」症状を認めた患者さんに対して「見間違えている物を除去する」、といった対応方法を実施します。これらの対応方法は、いずれも非侵襲的で、一般的に認知症の方のケアに有用であると考えられており、一般診療で行われるものです。実施した対応方法が有効であったかどうかの情報を集積し、実臨床場面での奏功確率を計算して、認知症ちえのわ net で計算された奏功確率との一貫性を定量的に評価します。

研究期間：2015年5月22日～2030年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：ニックネーム、性別、生まれた年、郵便番号の最初の3桁、認知症の診断の有無、有の場合は疾患名、要介護度、独居・非独居・入所、職業、教育歴、

病前性格、飲酒歴など

4. 外部への試料・情報の提供

上記の情報を、電子的配信を用いて、共同研究施設（大阪大学大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻ビッグデータ工学講座、医療法人洗心会 荒尾こころの郷病院、専修大学 ネットワーク情報学部、高知大学医学部神経精神科学教室、高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、筑波大学人間系、新潟青陵大学 福祉心理子ども学部）に配信することがあります。

5. 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科精神医学 吉山顕次
医療法人洗心会 荒尾こころの郷病院 石川智久
専修大学 ネットワーク情報学部 小杉尚子
大阪大学大学院情報科学研究科 鬼塚真
高知大学医学部神経精神科学教室 数井裕光
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
上村直人
兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 榎林哲雄
医療法人南江会一陽病院 諸隈陽子
医療法人一条会渡川病院 吉本啓一郎
公益財団法人浅香山病院 繁信和恵
筑波大学人間系 山中克夫
新潟青陵大学 福祉心理子ども学部 野口代
(試料・情報の管理は大阪大学大学院情報科学研究科にて行います)

6. お問い合わせ

本研究に関するお問い合わせの窓口は以下の通りです。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内圏で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下

記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学医学部附属病院 精神医学教室 吉山顕次（研究責任者）

電話：06-6879-3058（研究室直通）

7. 詳細情報

詳しくはこちら(<http://chienowa-net.com>)をご覧ください。